

左 东 医 報

2024—7・8 合併号

LIX—3・4 (699・700)



『大王埼灯台』

修学院第一班 八 田 一 郎 先生



目 次

2024年7・8月合併号(699・700号) 題字 平 澤 興 先生

表紙絵・文章	修学院第一班 八 田 一 郎	1
理 事 会 記 録		3
左京医師会学術講演 要旨		
「脱水症と熱中症対策 ～経口補水療法を用いて～」		
京都橘大学健康科学部 客員教授 西 本 泰 久 先生		11
追 悼		
故 井村晴美先生 ご略歴		13
故 井村晴美 と 左京医師会	井 村 裕 夫	14
故 岡村定夫先生 ご略歴		17
岡村定夫先生の思い出	八 田 一 郎	18
左京医師会 講演会等の予定		19
随 筆		
「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」		
第十二話「第三高等学校を京都へ移転させたのは		
北垣国道の腹芸だった？」(その1)		
	山 下 敬 司	21
「七仏七界」 西国四十九薬師霊場巡りの旅		
その参 前編「師界」	松 下 匡 孝	30
「気管支喘息 ～思い出すことと今、思うこと」	渡 邊 和 朗	33
新入会員紹介		36
編 集 後 記	兵 庫 美 砂 子	38

左京医報 表紙募集!!

会員の皆様の写真や絵画などを募集しています。
左京医師会事務局までご連絡ください。

表紙のことば

『大王埼灯台』

修学院第一班 八 田 一 郎

編者注 表紙の絵の説明は本文中(20頁)にあります。

一般社団法人左京医師会令和6年度第4回定例理事会

日 時：令和6年5月24日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・藤田・三嶋・赤木・西村・細谷・山下・青木・原山・佐藤・早野
久保田・児玉・平竹・松本・松木・八田・伊地智監事・米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 5月18日（土）一般社団法人左京医師会第37回定時総会

於：ウェスティン都ホテル京都

- 2) その他

来訪、会合、他

- 1) 6月3日（月）京都市左京区社会福祉協議会 令和6年度第1回理事会

13時30分

於：左京区役所

- 2) 6月6日（木）令和6年度第1回「左京・健康なまちづくり協議会」

14時

於：左京区役所

- 3) 6月7日（金）左京献血推進実行委員会及び地域献血会合同会議

14時

於：左京区役所

- 4) 6月15日（土）京都府医師会第212回定時代議員会

14時30分

於：京都府医師会館

- 5) 7月2日（火）左京区民対話会議（仮）

18時

於：左京区役所

- 6) その他

2. 庶 務

- 1) 5月18日（土）一般社団法人左京医師会第37回定時総会

委任状；180名 出席；30名

於：ウェスティン都ホテル京都

- 2) 5月22日（水）第2回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）

於：京都府医師会館

- 3) その他

3. 地域医療

- 1) 5月11日（土）令和6年度第1回認知症サポート医連絡会（ハイブリッド開催）

西村伊三男先生、細谷泰久先生

於：京都府医師会館

- 2) 5月17日（金）認知症部会（ハイブリッド開催）

出席；21名

於：国立京都国際会館

- 3) 5月17日(金) 在宅医療部会(ハイブリッド開催)
出席;16名 於:国立京都国際会館
- 4) 5月20日(月) 脳卒中地域連携の会(京都市北部)モデル実施についての説明会
(Web開催)
塩見聡史先生、松下匡孝先生、児玉直俊先生、松本早苗先生
- 5) 5月23日(木) 左京区民ふれあい事業実行委員会「スポーツ部会」
松下匡孝先生 於:左京区役所
- 6) 6月12日(水) 令和6年度左京区防災会議
早野尚志先生 14時 於:左京区役所
- 7) 6月22日(土) 岩倉地域包括支援センターとの交流会
15時 於:岩倉地域包括支援センター
- 8) 7月13日(土) 京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会
三嶋隆之先生、児玉直俊先生
14時 於:京都大学医薬研究棟藤多記念ホール
- 9) 7月13日(土) 区民公開講座
「総合診療医からみた、健康に暮らすヒントを教えます!第2弾」
大阪医科薬科大学総合医学研究センター医療統計室 講師
南丹市国民健康保険美山林健センター診療所 所長
西岡大輔先生
14時 於:京都府立京都学・歴史館
- 10) 7月27日(土) 令和6年度第1回在宅医療戦略会議(ハイブリッド開催)
14時 於:京都府医師会館
- 11) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野
教授 木下彩栄先生
14時30分 於:ウェスティン都ホテル京都
- 12) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 13) その他

4. 情報広報

- 1) 7月1日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

5. 学 術

- 1) 5月18日(土) 「感染症専門医が考える慢性気管支炎の治療
～健康寿命の延長を目指して～」
関西医科大学附属病院 呼吸器感染症・アレルギー科
教授 宮下修行先生
出席; 33名 於: ウェスティン都ホテル京都
- 2) 6月15日(土) 「脱水症・熱中症対策」
京都橘大学 客員教授 西本泰久先生
14時30分 於: ウェスティン都ホテル京都
- 3) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科
講師 山崎博司先生
14時30分 於: ウェスティン都ホテル京都
- 4) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生
16時 於: ウェスティン都ホテル京都
- 5) 11月16日(土) 「皮膚科診療(仮)」
京都府立医科大学北部キャンパス長
京都府立医科大学皮膚科 前教授 加藤則人先生
14時30分 於: 青蓮会館

6. 社 保

7. 福 祉

- 1) 7月20日(土) 文化講演会・納涼会 17時 於: ホテルオークラ京都

8. 税 務

9. 会 計

10. そ の 他

II. 議 事

- 1) 片岡裕貴先生(養正2班・B・公益社団法人信和会京都民医連あすかい病院)
入会申込書について ⇒承認
- 2) 那須徹也先生(養正2班・B・公益社団法人信和会京都民医連あすかい病院)
入会申込書について ⇒承認

- 3) 医療法人 MOC 松ヶ崎駅前おくだクリニック (松ヶ崎班・A・奥田孝太郎先生)
診療時間変更届について
班回覧 葵2班・修学院第一班・上高野班 意見あり。
葵1班・松ヶ崎班・修学院第二班 意見なし。 ⇒継続審議
- 4) 京都医療介護労働組合連合会「ケア労働者の持続的な賃上げと人材確保の保証を国
に求める地方議会請願へのご協力をお願い」について
取り組みへの意向調査 ⇒不対応
- 5) 京都医療介護労働組合連合会
「2024年のち守るキャラバン行動のお知らせとお願い」について
要請書、署名 ⇒不対応
- 6) 7/26 第8回定例理事会会場(国際会館使用不可)について ⇒承認
- 7) 文化講演会講演謝礼金額について ⇒承認
- 8) 文化講演会・納涼会の食事代金について ⇒承認
- 9) 京都市認知症初期集中支援チームへの会員異動情報開示について ⇒承認
- 10) 「京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会」後援について ⇒承認
- 11) 左京健康講座2024講師費用について ⇒承認
- 12) その他

次回理事会：6月14日(金)

文責 八田、兎玉

一般社団法人左京医師会令和6年度第5回定例理事会

日 時：令和6年6月14日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・赤木・西村・細谷・山下・青木・原山・佐藤・早野
久保田・兄玉（Web 参加）・平竹・兵庫・松本・松木・八田・市田・伊地智監事
米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 6月3日（月） 京都市左京区社会福祉協議会 令和6年度第1回理事会
於：左京区役所
- 2) 6月6日（木） 令和6年度第1回「左京・健康なまちづくり協議会」
於：左京区役所
- 3) 6月7日（金） 左京献血推進実行委員会及び地域献血会合同会議
於：左京区役所

4) その他

来訪、会合、他

- 1) 6月15日（土） 京都府医師会第212回定時代議員会
14時30分 於：京都府医師会館
- 2) 7月2日（火） 左京区民対話会議（仮） 18時 於：左京区役所
- 3) 7月17日（水） 令和6年度第1回京都市保健所運営協議会
13時30分 於：京都府医師会館
- 4) 7月28日（日） 京都府保険医協会第207回定時代議員会（ハイブリッド開催）
14時 於：ホテルグランヴィア京都
- 5) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会） 16時 於：京都ブライトンホテル
- 6) その他

2. 庶 務

- 1) 6月26日（水） 第3回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）
14時30分 於：京都府医師会館
- 2) その他

3. 地域医療

- 1) 5月29日（水） 左京区地域ケア連絡協議会・運営委員会
塩見聡史先生、細谷泰久先生 於：左京区役所

- 2) 6月5日(水) 左京区事業者連絡協議会代表者会(Web開催)
塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生
- 3) 6月7日(金) 災害対策部会(ハイブリッド開催)
出席; 8名 於: 国立京都国際会館
- 4) 6月10日(月) 左京区事業者連絡協議会例会
塩見聡史先生、原山拓也先生 於: 左京区役所
- 5) 6月12日(水) 令和6年度左京区防災会議
早野尚志先生 於: 左京区役所
- 6) 6月22日(土) 岩倉地域包括支援センターとの交流会
15時 於: 岩倉地域包括支援センター
- 7) 6月26日(水) 左京区民ふれあい事業実行委員会「区民まつり部会」
松下匡孝先生 14時 於: 左京区役所
- 8) 7月13日(土) 京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会
三嶋隆之先生、児玉直俊先生
14時 於: 京都大学医薬研究棟藤多記念ホール
- 9) 7月13日(土) 区民公開講座
「総合診療医からみた、健康に暮らすヒントを教えます! 第2弾」
大阪医科薬科大学総合医学研究センター医療統計室 講師
南丹市国民健康保険美山林健センター診療所 所長
西岡大輔先生
14時 於: 京都府立京都学・歴彩館
- 10) 7月27日(土) 令和6年度第1回在宅医療戦略会議(ハイブリッド開催)
14時 於: 京都府医師会館
- 11) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネート研修会
8時30分~18時30分 於: 京都府医師会館
- 12) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野
教授 木下彩栄先生
14時30分 於: ウェスティン都ホテル京都
- 13) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 14) その他

4. 情報広報

- 1) 7月1日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

5. 学 術

- 1) 6月15日(土) 「脱水症・熱中症対策」
京都橘大学 客員教授 西本泰久先生
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科
講師 山崎博司先生
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 4) 11月16日(土) 「皮膚科診療(仮)」
京都府立医科大学北部キャンパス長
京都府立医科大学皮膚科前教授 加藤則人先生
14時30分 於：青蓮会館

6. 社 保

7. 福 祉

- 1) 7月20日(土) 文化講演会・納涼会 17時 於：ホテルオークラ京都
「和歌に詠まれた四季」
冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子氏

8. 税 務

9. 会 計

10. そ の 他

II. 議 事

- 1) 医療法人 MOC 松ヶ崎駅前おくだクリニック(松ヶ崎班・A・奥田孝太郎先生)
診療時間変更届について ⇒承認
- 2) しもがも西尾クリニック(葵2班・A・西尾佳子先生) 診療時間変更届について
班回覧 下鴨班・葵1班・葵2班・松ヶ崎班 意見なし。 ⇒承認
- 3) 研修医等の会費に関する委員会の設置について ⇒承認
- 4) 学術講演会あり方検討委員会の設置について ⇒承認
- 5) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネート研修会への参加について ⇒承認

6)「認知症総合支援事業アドバイザーボード」への参画及び委員の推薦について

⇒承認

7) 三師会について

⇒承認

8) 事務所休務について

国際会館臨時休館 8/10(土)～8/15(木)

医師会夏季休業 8/14(水)～8/16(金)

⇒承認

9) 物品について

⇒承認

10) 文化講演会・納涼会見積書について

⇒承認

11) その他

次回理事会：6月28日(金)

文責：松木、佐藤

個別相談の受付

一般社団法人左京医師会では、大谷会計事務所のご厚意により、税務・経営・資金等に関する無料個別相談を開催しています。公認会計士、税理士が1回30分程度でご相談に応じますので、希望される会員は事務局までお申し出ください。相談曜日は、第2月曜日14時から16時までとなります。

ただし、相談内容に関して左京医師会は一切関与しませんので会員の自己責任でお願いいたします。

一般社団法人左京医師会

脱水症と熱中症対策 ～経口補水療法を用いて～

京都橘大学健康科学部 客員教授 西 本 泰 久 先生



脱水とは生体にとって、もっとも基本的な代謝異常です。脱水により細胞外液が減少すると続いて細胞内脱水も進行します。発汗、嘔吐、下痢などが脱水の原因となります。

熱中症とは「暑熱環境における身体適応の障害によって起こる状態の総称」です。発熱とは異なり、体温のセットポイントは変化せずに「うつ熱」により発症します。熱中症による救急搬送は5月頃から始まり、初秋まで続きます。熱中症の発症は、7月から8月に多発しますが、死亡は8月に比べ7月に多い傾向にあります。これは、暑熱順化に数日を要するためと考えられます。

熱中症は、Ⅰ度（軽症型）の筋肉の痙攣は、水分・塩分の喪失に対して水分補給のみを行ったときに出現するNa不足による症状です。熱失神は循環血液量の減少による症状です。水分と塩分の補給を行うことにより数日で回復します。Ⅱ度（中等症）は徐々に体温が上昇し、循環血液量不足からショックの症状に移行していく状態です。輸液などで治療します。Ⅲ度（重症）は体温が40度を超え発汗が停止し、臓器障害（多臓器不全）の状態です。集中治療が必要となる状態です。

熱中症による死亡の多くは室内で発生しており、その多くは高齢者が占めています。若年者は、運動や労作中に熱中症となることが多く、軽症者が多く、高齢者は非労作性熱中症が多く、急激に重症化するためと考えられます。熱中症を予防するには、「こまめな水分と塩分の摂取」、「気温をこまめに計る」、作業や運動時にはWBGTを利用して作業量、運動量を調節するなどが重要です。高齢者は口渴を感じにくく、暑さも感じにくいいため注意が必要です。

熱中症では経口摂取が可能であれば、腸管からの吸収の最も良好となる、NaCl 0.2%、グルコース2%程度に調整されたORS（経口補水液）を飲むことが有用です。汗などに失われた水分・塩分は補う必要があります。心不全などの水分・塩分摂取制限のある患者には、体重変化を見ながら水分・塩分摂取を勧めるとよいとおもわれます。



追悼 故 井村晴美先生 ご略歴



生年月日 昭和 9 年

ご出身地 滋賀県

最終学歴 昭和34年 3 月 京都府立医科大学 卒業

略 歴

昭和35年 医師国家資格合格

昭和35年 京都府立医科大学耳鼻咽喉科 入局

昭和42年 医学博士学位 取得

昭和43年 京都市左京区にて井村耳鼻咽喉科医院を開設

平成17年 左京医報の表紙絵（年 1 回を担当）

令和 5 年12月22日 逝去

故 井村晴美 と 左京医師会

京都大学名誉教授・元総長 井 村 裕 夫

昨年末に他界し、今年は初盆を迎えることになった妻、井村晴美について、左京医師会報に何か書くように依頼された。左京医師会には、妻が生前、随分お世話になったと聞いており、少し思い出を書いて、責めを果たしたい。

妻は1934年の生まれ、中等教育を終えると良縁を得て結婚することが、女性の幸福と考えられた時代から、大学に進学し、独立して生活する時代への変わり目の頃で、妻はあえて医師を目指して、京都府立医科大学を卒業した。その理由は、第二次世界大戦の終わりを旧満州で迎え、戦後の混乱期に多くの女性の不幸を目の当たりにしたこと、医師であった父親の、困難な中での活躍を見たことなどが理由であったと聞いている。従って、自らの進路は医師の道と決めて、大学卒業後は耳鼻咽喉科医を志し、大学病院で臨床と研究に従事した。

縁あって私と結婚してからは、私の活動を、全面的に支援してくれた。私がアメリカに留学した時には、当然のように同行してくれたし、帰国後開業をし始めた時、私が神戸大学教授に就任すると、予定を少し変更して神戸から京都に通って診療をするという、無理な生活を、進んでこなしてくれた。妻の献身的な協力なしには、私は今日の自分はなかったと考えている。

私が京都大学教授を務めた1977年から、91年の頃は、日本の医学が戦後の混乱期を抜け出して、急速に発展した時代であった。私は次々と国際学会の役職を引き受けざるを得ず、多くの訪問者が京都に来た。周知のように、アメリカで客をもてなす最高の方法は、自宅に招くことである。東京ではそのことが難しかったので、勢い京都では、こうした来訪者を自宅に招かねばならないというはめになった。そこで八瀬に日本庭園付きの家を建て、仕出し屋にたのんで家庭料理風のものを出して歓待した。妻は忙しい診療の仕事のやりくりを付けて、同席してくれた。

その後私は思いがけなくも京都大学総長、神戸市立中央市民病院長、総合科学技術会議議員などを歴任したが、妻は私の、神戸や東京での生活にも全面的に協力してくれた。特に東京での私の生活は、政府関係の仕事であったこともあって大変多忙であったが、妻は2週間に一度は休診日に東京に来て、一人住まいの部屋の掃除や洗濯などをしてくれ、二人で東京の食事を楽しんだりした。

妻の趣味は絵を描くことで、これも父親譲りである。休診日には、診療室の一部が画廊となり、先生に来ていただいて一生懸命絵を描くようになった。さらに日曜画家の集まり、チャーチル会に参加して、同好の人々と絵を描くことに熱中していた。時に左京医報の表

紙を飾れたことが、大変うれしかったようである。

晩年の妻は、家族に恵まれ、幸せそのもののように見えたが、病魔が忍び寄っていることに気づいたのは10年ほど前のことであった。最初は軽い手の震えが始まり、医師会などの会合に行って、受付で署名をするのが難しくなった。左京医師会での知り合いであった神経内科専門の石川光紀医師、さらには当時の京都大学神経内科高橋良輔教授などの診察を受け、パーキンソン病の類縁疾患である大脳皮質基底核変性症が最も疑わしいと診断された。様々な治療薬を使い、手を尽くしていただいたが奏効せず、2023年12月22日永眠した。最晩年は、高齢者施設に入り、石川医師に往診して手を尽くしていただいたからこそ、天寿を全うすることができたと考えている。

施設に入所する少し前、子供たちが妻の気持ちを考えて、北山通の画廊で個展を開催してくれた。海外旅行で印象に残った風景と、そこで買ってきた小さな人形を主題とした絵の展覧会となった。孫の一人が、「旅と人形」展と名付けてくれた。個展は初めてで、これにはチャーチル会の芝田先生の指導を受け、何とか形ができた。会期中には思いもかけず多くの方に参加していただいて、すでに歩行がかなり困難になっていた妻も、大喜びであった。医師会関係の方々も、かなり多かったと思っている。その後まもなく、私が不注意から転倒して、軽い骨折を起こし、自宅での介護が困難となり、妻は高齢者施設に入所することになったが、その間にこの個展の絵をまとめて、一冊の画集を発行することができた。これも左京医師会報に関係させていただいたおかげである。

画集はだいに施設に持ち込んで、新しく知り合いになった人に差し上げたりしていた。その後も石川医師には往診を続けて手を尽くしていただいた。最後までお世話になったことを、有難く思い、心から感謝している。また長い間、親しくしていただいた左京医師会関係の皆様にも、心からお礼を申し上げたい。



2014年6月号(578号)表紙掲載
『アムステルダム(オランダ)』



2017年12月号(620号)表紙掲載
『中国』

追悼 故 岡村定夫先生 ご略歴



生年月日 大正12年 6 月 9 日

ご出身地 滋賀県犬上郡

最終学歴 昭和25年 京都府立医科大学 卒業

略 歴

昭和19年 旧制彦根中学校 卒業

昭和25年 京都府立医科大学 卒業

同大学第二内科学教室 助手

昭和32年 済生会京都府病院 勤務

昭和34年 岡村医院 夜間開業（下鴨東高木町）

昭和44年 済生会京都府病院（内科部長）退職

岡村医院 全日開業（下鴨本町）

令和 2 年 岡村医院 閉院

令和 6 年 3 月17日 逝去

岡村定夫先生の思い出

修学院第一班 八 田 一 郎

私は岡村定夫先生と一緒に昭和50年から2年間、左京医師会の理事を務めさせていただきました。当時、左京医師会事務所は百万遍のお寺の塔頭にあり、座敷で月1回理事会がもたれていました。岡村先生の担当が何だったかは思い出せませんが、あまり発言はされず、だまってひとの発言に耳を傾けておられたお姿を思い出します。岡村先生は人を非難されることはなく、やさしく控えめで、誠実みのある方だと感じました。うろ覚えで申し訳ありませんが、岡村先生が左京医師会総会の議長だったと思いますが、のんびきならぬ事情のために、僕に代役を頼まれたことがありました。夜分お伺いすると、奥様も一緒に挨拶に出てくださり、会務の運びかたなど詳しく教えてくださり、おかげでことなきをえてお役目を果たすことができました。

私たちの理事会は有馬会長のおおらかな笑顔に包まれてみんな仲良く退任後も「マリア会」としてみんなが集まり、忘年会やゴルフ旅行など親交が続きました。宴会が盛り上がってくると、故人になられた毒舌家の益本先生は府立医大内科の先輩の岡村先生をからかって、「岡村先生はやさしそうな顔してはるけど昔は厳しかったで、鬼軍曹みたいやった」とみんなを笑わしておられたのをなつかしく思い出します。

岡村先生にはお子さんがいらっしゃらなくて、その分ご夫婦仲良くおだやかに過ごしておられました。岡村先生は確か滋賀県の旧家の御曹司だそうで、細かいことにこだわらないおおらかな方でした。ゴルフがお好きで、ご一緒すると、下手な僕をそっと見守ってくださり、一緒に回るのが楽しみでした。

昨年いつ頃だったか、岡村先生を玄関口あたりでお見かけしたと風のたよりに聞いたことがあり、「岡村先生お元気にしてはるのや」とうれしかったことを思い出します。今回の計報に接しびっくりしました。

岡村定夫先生、どうぞ安らかに眠りください。

左京医師会 講演会等の予定

(令和6年9月～11月)

開催日と場所は変更になる場合があります。
開催時間など詳細が決まりましたら医報などにて告知致します。

◆左京学術講演会

と き 9月21日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」

京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生

◆第33回認知症研究会

と き 10月19日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」

京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野 教授 木下彩栄先生

◆左京学術講演会

と き 10月19日(土) 16時00分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」

京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

◆左京学術講演会

と き 11月16日(土) 14時30分

ところ 青蓮会館

「コモンな皮膚疾患の診断と治療」

京都府立医科大学 北部キャンパス長 加藤則人先生

大王埼灯台

修学院第一班 八 田 一 郎

コロナ禍が穏やかになって久しぶりに昨年7月、大王埼灯台をスケッチに出かけました。鶴方からバスに乗って20分くらい、波切漁港前で下車すると懐かしい潮のかおりがただよってきます。波切は昔からカツオ漁が盛んなところですよ。網元らしき大きな屋敷もあります。大王埼灯台が波切の集落の右前方の岬に望めます。漁船をスケッチしながら、鰯の一夜干しをしている干物屋、真珠店、みやげもん屋を眺めながら坂道を登って行くと太平洋が目の前です。左の坂道を上ると大王埼灯台です。右側の坂道を上り、大王埼が太平洋越しにみえる見晴らしのいいちいさな休憩所に出ます。今回の表紙の絵はこちらからの眺めです。押し寄せる波が岬の先端の岩でしぶきをあげて崩れます。

灯台を描くときは、灯台だけを描いてみてもおもしろみがなく、ふもとの家並や魚港、岸辺の岩などがあって、その先にちょこっと灯台が見える、そんな絵が私は好きです。ほかの人の絵を見てもそのような絵が多いように思います。

波切は昔から絵描きが好んで訪れるところです。僕が絵をみてもらっている池田良則先生のおじいさんの池田^{ようそん}遙遜、この方は日本画家で文化勲章受章者ですが、若いころにやはり波切に長期滞在して描いておられたそうです。今でも波切の宿は健在で表看板の「えかきの宿」と大きな看板があがっている安宿があります。以前、絵画教室らしきグループが水彩画を楽しそうに描いていました。皆さんお上手です。ぼくはこんなにうまく描けないなァ、とうらやましく眺めていました。この頃は開き直って、自己流に描いています。下手でも、ひとさまに絵を見てもらって、いろいろ批評してもらおうと励みになります。以前は左京医師会主催の作品展がありましたが、今は京都府医師会主催の医家芸術展覧会（通称・医芸展）だけになってしまいました。左京医報の表紙に載せてもらえることもわたしはうれしく感謝しています。また絵を描こうという意欲が出ます。描けるうちは我流のへたな絵でも描いていきたいと思っています。またみてやってください。ありがとうございます。



「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」

第十二話 「第三高等中学校を京都へ移転させたのは

北垣国道の腹芸だった？」（その1）

北白川2班 山下 敬 司

【大阪で産声を上げた大阪舎密局が第三高等中学校となり忽然と京都へ移転した】

明治2年（1869年）に大阪に開設された大阪舎密局^{おおさかせいみきょく}は明治3年（1870年）に大阪理学校となり、さらに大阪洋学校と合併して大阪開成所となり、その後もどんどん名前を変えて上級学校として発展していきます。第三代京都府知事・北垣国道に切り捨てられて消滅への道を辿った京都舎密局とは対照的なその後でした。

大阪舎密局の発展の歴史を辿ると、大阪舎密局→大阪理学校→大阪開成所→第四大学区第一番中学→第三大学区第一番中学→第三大学区開明学校→大阪外国語学校→大阪英語学校→大阪専門学校→大阪中学校→大学分校→第三高等中学校→第三高等学校と相次いで名前を変えながら理学系と外国語系が統合され進化していきます。

ここで皆さんは、何かおかしいと思われませんか。第三高等学校といえば、「紅萌ゆる岡の花♪」の三高寮歌でお馴染みの京都の吉田山の山麓のはず。そうです、第三高等学校は、その前身の第三高等中学校の時に、忽然と大阪から京都へ引っ越してきたのです。

【第三高等中学校が移転してきた京都では、京都帝国大学がその後に発足した】

大阪舎密局として発祥以来ずっと大阪にあった第三高等中学校が京都に移転すると決定したのは明治19年（1886年）11月30日の文部省令で、明治22年（1889年）に移転が完了しました。第三高等中学校が第三高等学校となり、第三高等学校が京都にあったことから、移転から8年後の明治30年（1897年）に京都帝国大学（現在の京都大学）が東京帝国大学（現在の東京大学）に次ぐ二番目の帝国大学として京都に設立されました（図79）。

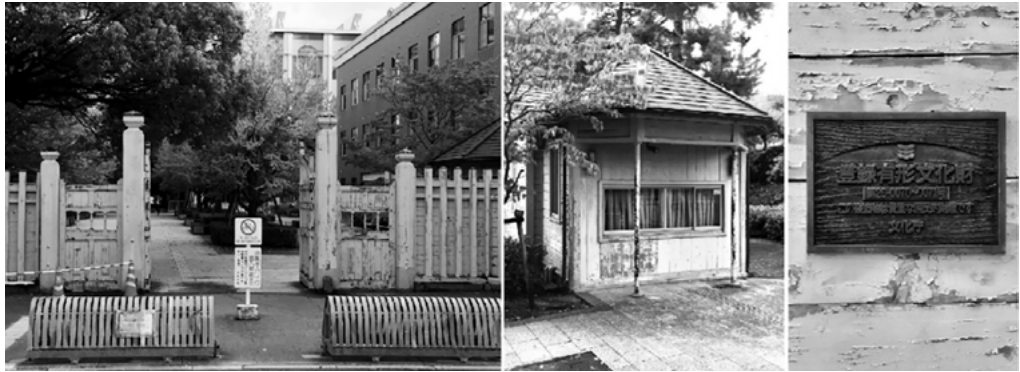


図79：京大吉田南構内にある京大総合人間学部正門（左側）と門衛所（中側）と正門裏側に掲げられている登録有形文化財の銘板（右側）の現況（門衛所は門の右手裏側にある）。この古めかしい門と門衛所は、明治30年（1897年）の第三高等学校の吉田二本松移転時に、文部省技師・真水英夫の設計で作られたもので、京都大学で現存する明治期の建造物の数少ない遺構であり、平成12年（2000年）に登録有形文化財に指定されている。この左手には第三高等学校時代に建てられた尚賢館がかつてあったが、平成元年（1989年）の不審火で全焼してしまったのは、なんとも残念なことであった。

その時に京都府と京都市は第三高等学校の移転先として現在の京都大学総合人間学部がある場所を提供し、第三高等学校があった場所（現在の京都大学本部キャンパス）と校舎を京都帝国大学が発足時に使えるようにするなど協力をしています。

【第三高等中学校に逃げられた大阪では帝国大学発足が京都に 34 年も遅れた！】

もし、第三高等学校が京都ではなく大阪にあったならば、二番目の帝国大学は京都ではなく、間違いなく大阪で開学したことでしょう。その場合には、京都は今のような学生の街とはならなかったと筆者は考えています。

そして第三高等中学校に京都へ逃げられてしまった大阪では、大阪帝国大学の開学は昭和6年（1931年）と京都帝国大学より34年も遅れ、国内に7校あった帝国大学の中で6番目という遅さでした。

大阪帝国大学を引き継いでできた大阪大学は、京都大学のような広大な本部キャンパスとその周辺での集中立地ではなく、あちこちに分散立地していますが、開学が遅れたことが影響したのではないかと筆者は推測しています。

そして、もし二番目の帝国大学が大阪にできていたら、大坂と同じ関西地区にある大阪よりはるかに小さな都市の京都には帝国大学が作られることはなかったのではないのでしょうか。

【京都大学に発足が34年も遅れた大阪大学は蛸足大学となり再履バスが登場】

帝国大学としての発足が京都大学に34年も遅れた大阪大学では、大阪市の都市化が既に進行していたため発足時に各学部を集中配置できず、やむをえず蛸足大学とならざるを得なかったと筆者は考えています。このため、大阪大学では、豊中、吹田、箕面の各キャンパスを循環する「学内連絡バス」を運行しており、学内者はこれを「再履バス」と呼んでいるようですが、それはなぜか皆様はご存じでしょうか。

現在の大阪大学では1年生は必ず豊中キャンパスで授業を受け、一部の学部を除いて2年以降は吹田キャンパスや箕面キャンパスに移動していきます。しかし、残念ながら1年生のうちに豊中で全ての単位を取れずに進級し、吹田キャンパスや箕面キャンパスから取れなかった単位の再履修のため「学内連絡バス」のお世話になる学生が結構いるそうです。このような経緯から「学内連絡バス」は「再履バス」と呼ばれているそうです。

【大阪時代の第三高等中学校は敷地が狭く、折田彦市校長が移転先を探していた】

第三高等中学校の前身校の大坂専門学校（大阪舎密局→[中略]→大坂専門学校→^{おりた}大阪中学校→大学分校→第三高等中学校→第三高等学校）へ明治13年（1880年）に折田彦市（当時31歳）が校長として着任しました。

着任後に大坂中学校と名前が変わり、彦市は施設整備や教育内容の充実に務めましたが、校地が狭く発展の障害となっていました。このため、大阪府内は元より兵庫県や京都府も含めて移転が検討されるようになりました。

第三高等中学校の設置場所は大阪府と決まっていたわけではなく、移転適地が大阪府内になれば、兵庫県や京都府でも構わないというのが文部省の方針でした。

【彦市は第三高等中学校を東京大学に次ぐ第二の大学へ改組しようと動いていた】

明治18年（1885年）に彦市は、大阪中学校を改組・拡張して関西に東京大学に次ぐ第二の大学を開設しようとする「関西大学創立次第概見」を文部省に提出し、この年に大阪中学校は大学分校と改称され、彦市は大学分校校長となりました。

なお同じ頃に、同志社英学校の創始者の新島 襄も、彦市とは違う立場から同志社英学校を発展させた私立の大学を官立の東京大学の対極として京都に発足させようと運動していました。

官立と私学、大阪と京都とその立ち位置は異なりますが、折田彦市と新島 襄がほぼ同じ時期に関西に東京大学に次ぐ学問の府を打ち立てようと動いていた訳で、二人の考え方の先進性がよくわかります。

【明治18年の学校制度改革で全国に高等中学校を5校整備することが決定された】

折田彦市は明治18年（1885年）に大学分校校長から文部省（役職は文部権大書記官・学務局次長心得）に異動し、翌年に文部省学務局長に昇任し、森^{もり} 有礼^{ありのり}文部大臣が進めた学校教育制度改革にかかわります。なお筆者は、彦市はこの教育制度改革を推進するために森に文部省へ呼び戻されたのではと考えています。

以上を受けて明治19年（1886年）4月に、諸学校令（帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令など）が制定されました。中学校令により、全国を5区に分け、それぞれに高等中学校が1校設置されることとなり、これに加えて山口と鹿児島には別枠で設立されました。既に前身校があった東京と大阪ではこれが転用されることとなり、東京の東京大学予備門は第一高等中学校に、大阪の大学分校は第三高等中学校となりました。

5つの高等中学校の内では、既存校を転用した第一高等中学校（東京）と第三高等中学校（大阪）は明治19年（1886年）に開校し（名前が変わっただけなので開校が早かった）、学校を新設した第二高等中学校（仙台）・第四高等中学校（金沢）・第五高等中学校（熊本）の3校はその翌年に開校しました。

この時に高等中学校の経費は、国と地方で分担して負担することとされ、地方の負担金は高等中学校所在地の府県が最も多く、区域内の府県にも負担が割り当てられました。そして官立（国立）学校なのに負担を強いられた府県では様々な軋轢が生まれ、予算を巡って府県会で紛糾することもあったそうです。

【文部省は第三高等中学校の移転費を京都府に負担させようと画策し国道が受託】

北垣国道・第三代京都府知事の回想によると、明治19年（1886年）の夏頃に東京へ出張していた国道は、文部次官の辻から「移転用地確保と校舎新築費の一部の10万円（総経費は16万円）を京都府で用意したら、大阪府から京都府へ第三高等中学校を移転してよい」と内々に言われたそうです。

文部省では、新設や移転が必要な高等中学校では、その費用の一部を地方に負担させようとしており、新設されることとなった金沢では旧大名家の前田家が78,000円を、山口と鹿児島では旧大名家の毛利家と島津家を中心とする地元の有志が経費を負担したそうです。

国道は辻から聞いた文部省提案の負担条件付き第三高等中学校京都移転案を即座に受け入れることを決めます。国道は第三高等中学校の誘致が京都に10万円以上の大きな果実をもたらすことを理解していました。かといって10万円という大金は、大規模土木工事である琵琶湖疏水を進めていた京都府には簡単に出せる金額ではありません。

このため国道は第三高等中学校の移転費の10万円を京都府から支出するために、ただちに京都府会への根回しを開始しました（京都府から10万円を支出するには府会の承認を得る必要があった）。ちなみに当時の明治政府の予算は7,000万円であり、これを100兆円と

して換算すると約1,400億円に相当します。

次の項目では、それを受けての京都府会での審議の模様をお伝えします。

【京都府会が「第三高等学校移転費 10 万円支出」を可決して京都移転が決定】

明治19年（1886年）11月20日に「第三高等学校の京都市への移転費10万円を京都府から支出する諮問案」が京都府会で審議されました（図80右側）。そして56対12の大差で可決されました（図80左側）。その結果はただちに京都府から文部省へ報告され、文部省から11月30日に「第三高等学校は京都へ置く」との告示が官報に掲載されました（図81）。

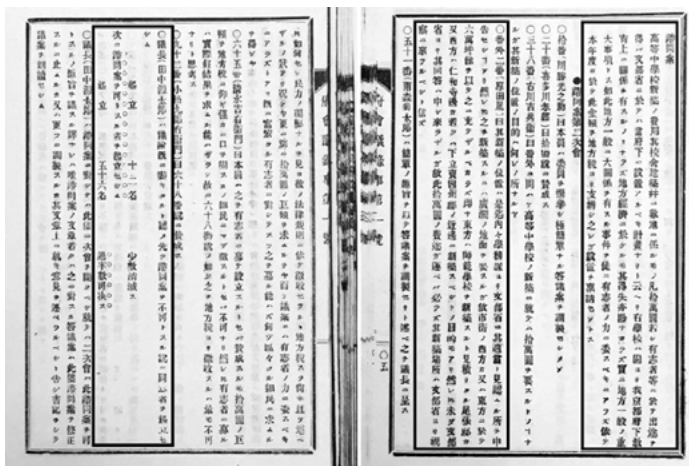


図80：明治19年（1886年）11月20日開催の京都府会の議事録（京都学・歴史館所蔵）。なお本文と関係のある重要な部分に筆者が黒枠を付した。

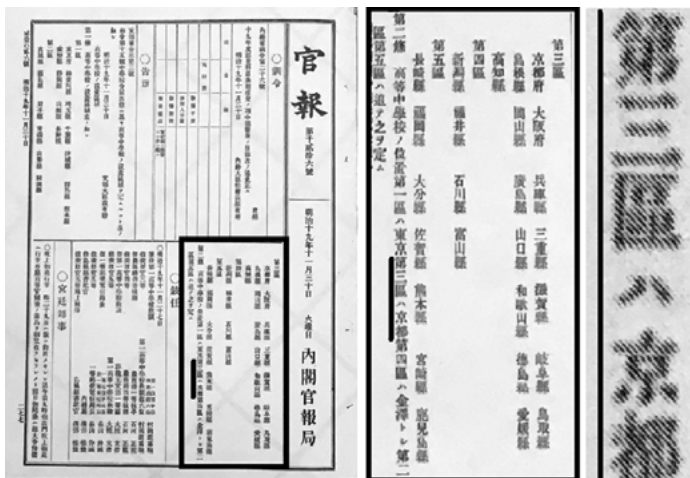


図81：明治19年（1886年）11月30日の官報。第三高等学校を京都に設置することを示す（大阪からの移転を意味する）部分を黒枠で囲み、その部分を拡大して右側にピックアップした。「第三区は京都」という僅か六文字であるが、これにより第三高等学校の京都移転が決定した重要な歴史資料である。第三区には京都府、大阪府、兵庫県など15府県が含まれているが、第三高等学校の京都移転が決したため、京都府が大阪府を抑えて先頭に躍り出ている。

なお、京都府会での審議に際して、京都府担当者の原田が「第三高等学校の新築位置は内々に文部省へ適地を報告しており、候補地は6万坪程度の広い土地が望ましく（広さは文部省からの指示と思われる）、土地の広大な東部の尾張邸（尾張藩京都屋敷）と西部

の仁和寺付近の田畑に加えて因州鳥取藩京都藩邸跡（約3,900坪と狭いが都心部の油小路通中立売下ルにあった）も候補地であり、10万円の京都府負担案が決まれば、近々文部省から視察に来る見込みである」と説明しています（図80右側の左側黒枠）。

以上から、この時まで既に京都府から文部省へ第三高等中学校の新築用地として、尾張邸（尾張藩京都屋敷）と仁和寺付近の田畑と因州鳥取藩京都藩邸跡が候補地として示されていたことがわかります。

【第三高等中学校の移転経費負担のための増税案は2票差で臨時府会を突破】

明治19年（1886年）11月20日の京都府会の議決は「第三高等中学校の京都への移転費用として10万円を京都府から国（文部省）へ提供する」という内容で財源が不明確であったため、その翌年の明治19年（1886年）5月に10万円の具体的な資金の調達方法を定める諮問案が臨時府会へ上程されました。

諮問案では、議員の反発を避けるために少しでも増税額を減らそうとして、京都府立中学校を廃止して同校の資本金（有志からの寄付金などが原資）の3万余円と新たに追徴する地方税の6万余円を合わせて10万円を高等中学校創立費（同移転経費）として用意するという内容でした。しかし、いつの時代でも増税案は歓迎されず審議は紛糾し、32対30の僅差でかろうじて府会で可決され、内務省からも承認されました。

こうして、なんとか合計10万円を明治20年（1887年）に文部省へ約束した通りに用意できることになりました。もし、否決されれば文部省との約束は反故にされたことになり、第三高等中学校の京都移転は白紙撤回となった可能性があったと筆者は考えています。

当時の京都府は工費125万円（当時の京都府予算の約2年分）の琵琶湖第一疏水建設の真只中であり、その上でさらに10万円を用意して第三高等中学校を京都へ誘致しようとする国道の熱意は、琵琶湖疏水への熱意以上の並々ならぬものであったと筆者は考えています。

もし、第三高等中学校の京都誘致に北垣国道が熱意を示さず、あるいは京都府会で予算措置が否決されていたら、第三高等中学校の京都移転はなく、京都帝国大学が早々と京都に開学することもなく、京都は現在のような学生の街とはならなかったことでしょう。

【廃止された京都府立中学校を東本願寺が引き受け、後に府立一中となった】

京都府が第三高等中学校を誘致する資金確保のとばっちりを受けたのが、明治21年（1888年）に廃止された京都府立中学校ですが、東本願寺がその受け皿となる中学校を設立したため、学生達は勉学を続けることができました。そして琵琶湖疏水が完成して3年後、北垣国道が京都府知事から北海道庁長官へ転任して1年後の明治26年（1893年）に東本願寺から京都府へ返還され、京都府立中学校が再出発しました。国道の赴任後は京都府と仏教界との関係は良好となっており、国道が水面下で東本願寺へ相談し、東本願寺が助

け船を出したのではないかと筆者は想像しています。

東本願寺が京都府立中学校を受け継いで設立していた中学校が京都府へ返還された後に、東本願寺はその校舎を利用して大谷中学校を設立し、現在の大谷中学校・高等学校へ繋がっています。そして京都府へ返還された京都府立中学校は京都帝国大学が創立された明治30年(1897年)に吉田近衛町に移転して京都府立第一中学校(府立一中)となりました。

その結果、左京区吉田地区は京都帝国大学・第三高等学校・府立一中が北から南へ連続して建ち並び、付近の景観は一新され、関西きっての文教地区へと変貌を遂げました。府立一中はその後に左京区下鴨梅ノ木町へ移転し、現在は京都府立洛北高校となっています。

【臨時京都府会での高等中学校費 10 万円議決を受けて国道と折田彦市が懇談】

北垣国道の日記「塵海」の明治20年(1867年)5月16日の欄に「折田高等中学校長と同幹事平山太郎来訪し、高等中学校計画を談す」とあります。臨時府会で高等中学校創立費10万円が可決されたことを知らされた折田彦市が高等中学校の幹部を連れて京都へ来て、既に尾張藩京屋敷跡に決まっていた高等中学校の未来像を国道と懇談したことがわかります。二人にとっては至福の時間だったと思われ、きっと祝杯を交わしたことでしょう。

さらに北垣国道の日記「塵海」の明治20年(1867年)5月17日の欄には「高等中学校創立費特費目の義、決了の通に内務大臣許可電報ありに付、本日更に支出案を議し、結了によって閉場式を行い、慰労の酒肴を出す」とあります。議決完了を内務大臣・山縣有朋へ報告して承認されたことを受けて府会での審議終了となり、協力してくれた京都府会や京都府関係者を招き、おそらくは国道の驕りで小宴会をしたものと思われます。これまた国道や誘致にかかわった人々にとっては至福のひとつだったのではないのでしょうか。

【第三高等中学校の校地は森大臣自らが実地検分して尾張邸跡に決定された】

なお京都大百周年記念館の展示では「明治19年(1886年)12月27日に森文部大臣が京都へ赴いて実地検分して尾張邸跡への移転が決まった」とことと「水質の良さから3カ所の候補地から尾張邸跡が選ばれた」と書かれていました。しかし筆者は水質云々は副次的な理由であって、主たる理由ではないと考えています。このように第三高等中学校の移転先の選定にあたって森文部大臣自らが来京して決定を下しており、彼の頭の中には第三高等中学校を今後発展させていくビジョンが既にあったのではないのでしょうか。

なお、森文部大臣は第三高等中学校の用地として6万坪程度が望ましいと自ら京都府へ指示をしたそうで、森は「今は不必要でもその後に(第三高等中学校が)発展すれば、広大な校地が必ず必要となる」と語っていたそうです。森の先見性が見てとれるエピソードですね。

【10万円の第三高等中学校移転費の京都府負担案はなぜ府会で可決できたのか？】

ここで注目して頂きたいのは、京都府会の議決は32対30の否決寸前の僅差での可決であったことです。その当時の京都では、新島 襄や山本覚馬らによる明治専門学校（同志社大学）設立構想が動き出しており、府会議長の田中源太郎を筆頭に、浜岡光哲、高本文平らの多くの府会議員を含む賛同者がいました。彼らの多くは山本覚馬の私塾の教え子であり、彼らには京都における高等教育充実の重要性が理解されていたと思われ、彼らの存在があってこそこの僅差での可決だったと思います。

もし、新島 襄の大学構想が京都で始動していなかったら、第三高等中学校の京都への移転は実現しなかったのではないかと筆者は考えています。大阪府でも国が設立母体である第三高等中学校の移転経費を大阪府が負担することへの反発があり、移転経費負担や用地問題が解決できずにいたことが京都移転の背景としてあったことは間違いありません。

思えば、同志社英学校の創設も当初は大阪府で開校予定でしたが、当時の大阪府知事はキリスト教系の学校の開校に難色を示したため京都府へ話が移り、新島 襄の熱意を京都府知事の榎村正直が受け入れ府顧問の山本覚馬が全面協力したため、京都で開校されました。そして、時代が下り同志社大学構想が動き出した頃に、第三高等中学校を大阪から京都へ移転させる話が持ち上がり、北垣国道が即断して受け入れに動き、臨時府会で移転経費負担案を僅差で通過させ、第三高等中学校の大阪から京都への移転が瞬く間に決まりました。

このような偶然とも言える機会を先人たちが生かしてきたからこそこの「学生の街・京都」であることを私たちは忘れてはならないと筆者は思っています。

【安藤精軒が国道の依頼で文部省と第三高等中学校移転の密談をしたのかも？】

安藤精軒の曾孫に当たられる京都市左京区山端川原町で小児科医院を開業しておられた加藤静允先生が令和4年（2022年）6月に発行された芝蘭会報（京都大学医学部同窓会誌）第209号に書かれた記事によると、静允先生の父方の祖母（精軒の四女）が「京都の帝大（現・京都大学）は大阪に決まっていたのを、安藤のおじいさん（安藤精軒）が『学問は京都や！』と言って東京へ頼みに行ったことから京都・吉田に建てられた」と常々話しておられたそうです。京都帝国大学が京都にできたのは、その前身と言ってもあながち間違いではない第三高等学校が京都にあったからであって、それを決定づけたのは第三高等中学校の京都移転でした。なので、精軒がこれに係わったのならば、第三高等中学校の移転の時だと思われます。

ひょっとすると精軒は北垣国道の密命を帯びて文部省学務局長の折田彦市を訪ね、第三高等中学校の京都への移転が可能か、可能ならその条件は何かを聞き出すための秘密交渉をしたのかもしれませんがね。その可能性を探るために、北垣国道の日記「塵海」を精査し

てみたところ、安藤精軒に関する記述が明治17年（1884年）と明治19年（1886年）と明治24年（1891年）の3回あり、1回目は貧病院に関する意見具申のための来訪で、2回目は避病院（明治時代に設置された伝染病専門病院で市立京都病院を経て昭和40年〔1965年〕に京都府中央病院と統合して京都市立病院となった）の院長心得としての氏名記載で、3回目は濃尾地震の救援のため医会よりの医師派遣の意見具申のための来訪であり、第三高等中学校の移転に絡んだものはありませんでした。なので、精軒がどのように係わったのかは不明です。

加藤静允先生の記事を見るまでは、恥ずかしながら筆者は安藤精軒の名も事績も知りませんでした。「近代京都の施薬院」（八木聖弥著）によると、精軒は天保6年（1835年）に越前福井藩医・山田道意の次男として生まれ、京都の町医・安藤桂洲の女婿として安藤家に入り安藤姓となり、京都で初めて種痘を開始した日野鼎哉の下で、養父・桂州と共に種痘を進めたそうです。

精軒の功績の中で特筆されるのは、明治30年（1897年）に施薬院（その後に京都府中央病院となり避病院から発展した市立京都病院と統合して京都市立病院となった）という低所得者のための私立病院を知恩院山内に開設し、慈善事業として無料で診察をしていたことで、その運営に全財産をつぎ込み、晩年は狭い借家で過ごしたそうです。このことを知り、筆者は療病院の創建や地域経済の発展や地域医療の発展に私財を投じて尽くして破産に至った明石博高のことを思わず思い出しました。

余談ですが、越前福井藩の藩医は蘭方・漢方を含めて40名ほどいたそうで、緒方洪庵門下の天才医師でありながら、松平春嶽の懐刀となって幕末に西郷隆盛とともに活躍し、安政の大獄で処刑された橋本左内は蘭方系の外科の藩医でした。そして初代日本赤十字病院長となった橋本綱常は左内の弟でした。佐内が維新後まで生き残っていたら、近代日本のために大いに活躍したであろうと筆者は思っています。

【第三高等中学校は大阪の都心にあったが故に手狭となっても拡張できなかった】

このお話は次回でさせていただきますので、またお読みくださいね。

（第十二話・その2へ続く）



七 仏 七 界

西国四十九薬師霊場巡りの旅 その参 前編

「 師 界 」

上高野班 松 下 匡 孝

2024年3月17日

今回から「師界」の七寺を巡る。自転車で廻った「薬界」は道に迷って大変だったが、今回は近鉄電車とバスでの巡礼である。時間さえ守れば連れて行ってくれるし、昼食時間も確保している。今回は完璧なはずである。

第七番札所 真言宗 御室派 久米寺

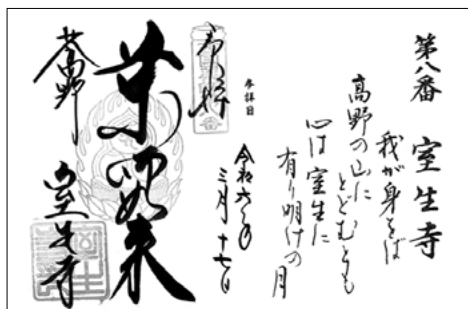
竹田駅で地下鉄烏丸線から近鉄京都線橿原神宮前行の急行に乗換え。久米寺は橿原神宮前駅から徒歩4分という賃貸住宅の宣伝のような駅近のお寺だ。9時の開門とほぼ同時に到着。仁王門をくぐり境内に入る。コンパクトなお寺だが、本堂、多宝塔、大師堂、金色に輝く大日如来坐像などいくつもみるべきものがあった。本堂前で灯明を付け線香に火を移す。本堂には靴を脱いで上がることができたが、堂内のお薬師さまはよく見えない。前回同様に読経し、バインダーを見せて御宝印をいただく。三鈷の松の葉もいただいて、一歩動いた瞬間、左の足裏に何か刺さった感じ。本堂を出た後境内のベンチに座り足裏を確認すると、靴下に木端が刺さっていたが除去したら痛みは引いた。久米寺を辞して近鉄橿原神宮前駅へ向かう。



第八番札所 真言宗 室生寺派 大本山 室生寺

急行を乗り継いで10時過ぎに近鉄室生口大野駅に到着。44番のバスに乗車し15分ほどで室生寺バス停に着いた。昼食の店を探しながら参道を歩くが、閉まっている店が多く2分ほどで室生寺に着いてしまった。ほぼ昼食の選択肢はないようだ。入山料600円を支払っ

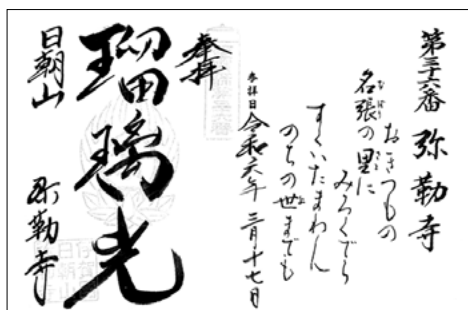
て中に入る。中に入ると正面に朱塗りの仁王門があり、一礼してくぐると左手に長い石段が見える。ちょっと身構えたが、難なく上り切ると正面にお薬師さまがおられる金堂があった。金堂の狭い通路の端に寄って、読経。納札を入れるところが見当たらないので、金堂におられたお寺の方に場所を尋ねると、「お納めしてきますね。」と受け取っていただいた。おみくじを



引いてみると「大吉」、災いを退け次々と福を運んでくるという梟の縁起物が入っていた。時間もあるので本堂にも行ってみる。本堂には如意輪観音菩薩が祀られており、久しぶりの観音経を読経。納経所で御宝印をいただき寺を辞した。バスが出るまであと30分、選択肢の限られた太鼓橋たもとの食堂に入る。まだ11時過ぎだからかお客さんは誰もいない。奮発してざるそば定食1,770円を注文。可もなく不可もなく、20分ほどで店を出た。バス停に向かう途中、よもぎ入りの回転焼きを買う。バスは2時間に1本ぐらいしかないので、帰りは比較的乗客が多かった。室生口大野駅から桔梗が丘駅に向かう。

第三十六番札所 真言宗 豊山派 日朝山 弥勒寺

電車を乗り継いで移動するのは楽ちんでよい。予定通り12時30分に近鉄桔梗が丘駅に着いた。当初は一つ手前の名張駅でレンタサイクルを借りて3.5km先の弥勒寺をお参りする予定だったが、今日は曇天の予報だったし、実際雨が降り出しそうだ。おまけにバスは数時間に1本しかない。ということは、徒歩でお参りすることになるのだが、今回の予習はバッチリだ。



勇んで上野名張線(県道57号線)を歩き出す。小学生の時は隣の伊賀市上野(当時は上野市)に住んでいたもので、近鉄が桔梗が丘を開発して間もない昭和45年頃にプールに連れてきてもらった記憶があるが、そのプールはもはや影も形もない。美容室を目印に左折し、桔梗が丘西第二集会所の前を右折して、ひたすらまっすぐ行けば弥勒寺に到着するはずだ。桔梗が丘西三番町の坂を上っていくと、後ろを歩いていたはずの女の子が、坂の遙か先を歩いている。駅前の歩道橋を渡ったら近道だったのかぁ…。まあいい、道は間違っていないから。丘の頂上を越えると急に住宅が無くなる。道も細くなって、ここまでは開発されてはいないようだ。ぽつぽつ雨が降ってきたが、折りたたみ傘を持参してきたから濡れることはない。レンタサイクルでなくて正解。在宅複合型施設を越え、前回失敗した三叉路もスマホのマップで確認して真ん中の正しい道を進むことができた。完璧だ、った。ご機嫌で畑に囲まれた道を歩いていると、突然催してきた。「ヤバい、どっかにトイレ…。」。5分

ほど我慢しながら歩いていたが、限界を迎えつつある！「ティッシュは持ってるし、誰もいないから畑ですか…。」と本気で考えるぐらいヤバい状態になって来た。しかし伊賀コリドールロード(伊賀市と名張市にまたがる広域農道で、1周94.5kmの環状道路らしい)に出てしまう。周囲は見晴らしが良すぎる。祈る思いで辺りを見回すと、右前方にガソリンスタンドが見えた。早足でガソリンスタンドに行ってトイレを請う。悲愴な顔をしていたのか快く貸していただいた。間に合った。ありがとうございました、丸紅エネルギー名張北SSの方々。少々道は逸れたが、ほぼ予定通りの13時15分、弥勒寺に到着。寺と同じ敷地内に春日神社があった。お参りの方は誰もいない。本堂にお祀りされている薬師如来坐像を前に灯明、線香を灯し、声を出して読経する。お参りを済ませて納経所へ。令和2年に放送されたNHKの番組で、ブラットタモリさんが訪れたようでポスターが貼ってあった。納経をいただいたときに、“お接待”として“炙びす焼”という海老煎餅の薄焼きをいただく。久々に聞く“お接待”という言葉。ありがたく頂戴して寺を出た。

今日の予定は終了、来た道を戻ればよい。と思って歩き出したら、いきなり道を間違え畑の畦道を歩くことになった。「まっすぐ行けばなんとかなるだろう。」と思って直進するが、目をこらして行く先をよく見てみると、またフェンスが貼られておりコリドールロードへ出られそうにない。今回の薬師霊場巡りは“畦道”と“フェンス”に注意が必要なようだ。畑のど真ん中の畦道を歩き、深さ2mほどの用水路の上に渡してある細い水路の縁を渡り、なんとか用水路に落ちずに本来の道へ戻ることができた。桔梗が丘西三番町の住宅街まで来ると、女の子が歩いていたであろう近道に行くことにする。大丈夫か？迷わないか？なるほど、丘を下ればすぐに駅前の歩道橋に出た。雨はやんでいる。予定より15分も早く桔梗が丘駅に到着。予定通りの列車に乗車し、予定時刻通りに帰宅できた。お金はかかるが公共交通機関は時間通りで楽だなあ。

左足裏には木の破片が残っていたので、妻と二人して毛抜きで無事抜いた。

その参後編に続く



気管支喘息 ～思い出すことと今、思うこと

第3 錦林班 渡 邊 和 朗

気候変動、地球温暖化といわれますが毎年、春から夏にかけて庭に堇や馬酔木の花が咲き、次いでタツナミソウが地面に広がり、ツツジの花が開き、それが盛りを過ぎると除虫菊の白い花が風にゆれ、そろそろ紫陽花と、季節は確実に移り変わっていくのが感じられます。その季節の変わり目、特にゴールデンウィーク前後は気管支喘息の患者さんの受診が多くなります。このような詩がありました。「ブルージーンズ：子供を人にあずけて出てきた / バイト先で喘息の発作がおきた / はこばれてきた高い広いベッド / ひざのぬけそうなブルージーンズのまま / 酸素室で / 二日過ごした / 汗にまみれて汗がたまっていく白いベッド / お尻のポケットのところに一万円が / はいっているのだ / 何とかならなにかしら / 右手をのばしてみる / 左手の点滴がゆらり ゆれて / 胸にはりついたミニミニ心電図の線が / かしゃかしゃ / 喉がつまって 急などうき どっと汗 / まだダメ // ジーパン買いなって / 一万円くれたのだ / バイトじゃボーナスもないんだろ / 子連れのごげさん—— / おつりでさ / ハリでもヤイトにでも通って / 喘息治してしまいな / それともうんと美味しいもん食うか / もうちいっと元気になったらさ / 好きになってやる—— // 長い団交でやっとけりがついて / やっと出た一時金 ナイロンにつつんで / 冷蔵庫でフリージングしているうちの / パリパリの一枚だった // ちぎれてないかしら お札 / 意識がもどると気にかかる / でも またしても どっと汗して / 気を失う // 肩で息ができるようになった三日目 / 子供をあずけている人がネマキを / もってきてくれて / 子供の飯代もっていった // ジーパンのポケットから / 一万円 / じゃあ さようなら」。詩集「ブルージーンズ」ひらのりょうこ著（1977年）より。

21世紀はじめ頃までは気管支喘息重積発作で救急搬送されてくる人が多く、中には呼吸状態が悪く気管挿管の例にも頻繁に遭遇しました。マスコミによる反ステロイドのキャンペーンもあってステロイド忌避も多く、この詩にあるようなことは日常茶飯事でした。一番、印象に残っているのは感冒薬により気管支喘息重積発作を起こした人です。ステロイド点滴静注も含むいろいろな処置で治療を開始しましたが、どんどん呼吸状態が悪化していきます。当時、麻酔学の教科書にフローセンという吸入麻酔薬が喘息発作に有効という記述があり、気管挿管して麻酔器で吸入をはじめました。ところが気道抵抗が強く全く吸気が入りません。そのうち今まで頻脈だったのが突然、心拍100/分をきり、80/分、70/分とみるみるうちに下がっていきます。家族への説明の言葉を考えながら、心肺蘇生のため看護師（当時は看護婦）さんたちを待機させました。ところが、急に気道抵抗が少なく

なり吸気が入るようになってようやく救命できました。21世紀になって吸入ステロイドが普及し、このような例は少なくなり、隔世の感があります。しかし気管支喘息として吸入ステロイド治療をされていた患者さんが実は気管支結核や肺結核であったという例には時々出会います。詳しくない先生から結核は過去の病気のように言われることもあります。今でも結核は死ぬことのある病気です。日本はかつて結核蔓延国だったので結核の既往のある高齢者は多数おられます。また、結核蔓延国からの外国人の方や若い日本人にも貧困者が増えたのか一時、ほとんど見られなくなっていた若い日本人の活動性結核を散見します。吸入ステロイドを使用するときは留意する必要があるでしょう。70年ほど前に同居していた私の叔母は結核のため20代前半で亡くなっています。私は幼児だったので色白の人だったことしか覚えていません。今のタレントやモデルの人たちのどぎつい不自然な白さではなく、この世のものとは思われない透き通るような儂い感じのする肌の白さでした。父は本当はこの叔母と結婚したかったようです。写真を見るときれいな人です。60年ほど前、父の歯科診療所で働いていた先生にも片肺上葉切除と胸郭形成の手術創を見せてもらったことがあります。「肋骨を何本か取られた。」と。1980年代、医師になりたての頃、かつて結核治療のために胸腔に充填されたピンポン玉を摘出する手術の症例によく出会いました。余談ですがアメリカ映画「聖メリーの鐘」（1945年）で初期の肺結核をヒロインのシスター（カトリックの修道女）に告知するかどうかというシーンがありました。医師が左肺尖のあたりを指し示しているX線写真が裏返しなのがご愛敬ですが、当時はアメリカでもこのような状況だったことがうかがえます。過日、左京医師会の講演会で演者の先生が吸入薬を熱心に推す一方、使用上の留意点などにはあまり言及されなかったことと単純X線写真は肺気腫の診断には重視していないのであまり興味ないと言うようなことをおっしゃったのには講演内容が立派であっただけに少し残念な気持ちになりました。近年、CTでないと何もわからないので胸部単純写を重視しないという発言を聞く機会が増え、それも医療関係者だけでなく一般の患者さんにも「レントゲンなんか撮ってもわからないことが多いでしょう。」などと言われ検査を遠回しに拒否されることも多くなりました。中にはCTの被ばくは全く気にならないのに単純X線写真の被ばくにはひどく神経質な患者さんもいます。私のようなCTを持たない診療所の開業医では単純X線検査をしっかりと読影するしかありません。京都市の感染症審査会結核部会で月に2回、胸部単純写真とCTの画像を見ていると（単純X線写真とCTがセットで提示されます。）単純写真では見えない病変をCTが見つかることが多いのは確かです。胸部単純写真は肺野の微細なGGO（すりガラス陰影）には、ほぼ無力です。しかし、中にはよくも胸部単純写真のこの微細な所見からCT検査につなげたと感心する症例にも出会います。私も見習いたいものです。逆にCT検査をしながら見逃している例もあります。銀塩写真の時代に適正な撮影条件とおろしたての現像液によるX線写真は音楽CDに対するLPレコードのような趣がありました。デジタルでも単純写真の黒く締まった背景にくっきりした白い骨皮質や微妙な階調（グラデーション）の臓器や骨梁などを見ていると単純X線写真の画像はとても美しいと感ずることがあります。皆さんはいかがでしょうか。

「ブルージーンズ」という詩の作者、ひらのりょうこさんはご本人によると昭和15年(1940年)に旧満州で生まれ、両親をなくしたため昭和19年(1944年)帰国されました。その後、西陣で親戚の織屋さんに育てられ、染屋さんに嫁がれました。嫁ぎ先の家業の染工場で染料や薬品により気管支喘息を発症して幼い息子さんとともに離縁されたそうです。養家も不況で廃業。喘息で入院するたびに解雇され、アルバイトを転々とする母子二人の極貧の生活の中で詩やルポルタージュを執筆された方です。60年ほど前、京都の町なかに暮らしていた小学生時代、「ろおじ」(路地のことです。「お」に軽くアクセントがあります。)の奥にある友達の家を訪ね、戸を開けると(当時はインターホンは無く、玄関の戸を開けて大声で呼ぶのが普通でした。)玄関を入ったところに土間と狭い板敷のスペースがあって、一家が暮らしているのは6畳か8畳の間だけ。共同トイレと共同炊事場が「ろおじ」の奥の少し広くなったところにありました。部屋にはわずかな家具があって、低いみずや箆笥の上に戦争で亡くなった人の写真がまつられていることもありました。今、当院の患者さんたちも必要な薬や検査を節約する人が増えてきています。全国に「こども食堂」が多数ある現状を考えると困難な状況にある人たちにとっては時代は変わっても事態はさほど変わっていないように見受けられます。ひらのりょうこさんの50年ほど前の詩と現代の山崎佳代子さんの詩を比べてみましょう。詩集「ブルージーンズ」ひらのりょうこ著(1977年)より。「きつねうどん:職探しにあるいていた// ぼく きつねうどん——/ ああ もっと別のを ごちそうを食べないか——/ じゃぼん氏をたずねたとき / あったかい店へつれていってもらったのだ / あれもこれもと注文せずに / ああ美味しかった ごちそうさま——/ きつねうどんをきれいに食べた桂太であったこと / 母さん嬉しかった // 母が昔お世話になりました / 桂太はじゃぼん氏をたずねるだろう / きつねうどんをごちそうしてあげるといい / ああ 美味しかった / 桂太君 ごちそうさん——/ じゃぼん氏は / そういつてくれるだろう」。じゃぼん氏とはひらのさんが職探しに歩いているときに相談に乗ってくれた人のニックネームです。そして、詩集「黙然をりて」山崎佳代子著(2022年)の「ベオグラード、黒海へ」より抜粋。「ざわめく駅のホームでは / 蜜柑色の近距離電車で / 誰かが身を投げると / 迅速に遺体は処理され / 取り返しのつかないほど / 魂は冷やされて消し去られ / 果物も野菜も実らない都会に / 自分の顔を失った人々が群がる」。2篇の詩をくらべるとどちらが幸せなのかと考えさせられます。今年、新しい京都市長が選出されました。選挙期間中に報道された選挙事務所やそこに集まった支持者の人たちの様子を見ると、この連中が困難な環境に暮らす人たちのことに思いをいたすことはないと感じられます。私は時々、妻に連れられてスーパーに行きますが、最近の食品の値上げ率は政府発表のインフレ率を桁違いに大きく上回っていることが実感されます。電力料金の大幅値上げも行われました。テレビの街頭インタビューでも「値上げもしかたないねえ。」などと言わせて現状をあきらめさせるのに躍起となっています。総理大臣も「増税メガネ」と揶揄される国の政策下では「経済成長」とは一般国民ではなく権力者や大企業の懐を肥やすことを言っているのでしょう。私のところのような零細な診療所も今まで以上に先行き困難な時代です。できる範囲で弱者の立場を考えて仕事を続けていきたいと思っています。

新 入 会 員 紹 介

平成13年度以降にご入会頂いた先生方に改めて名鑑原稿のご記入をお願いし、左京医報および左京医師会ホームページ上で順次ご紹介することとなりました。

先にご入会の先生方にとっては新しい仲間を知って頂く良い機会ですし、新しくご入会の先生におかれましては、これを機会に医師会行事等に積極的にご参加頂きますようお願い申し上げます。

氏 名 ^{かた}片 ^{おか}岡 ^{ゆう}裕 ^き貴

医療機関名 京都民医連あすかい病院
所 属 班 養正2班 男性
入 会 年 2024年 B会員
専 攻 呼吸器科
趣 味 読書

ープロフィールー



私は京都民医連あすかい病院の一般病棟で勤務医をしております。日々の診療においては患者様一人ひとりに寄り添い、最善の医療を提供することを心がけております。

趣味は読書で、様々なジャンルの本を通じて知識を広げております。また、臨床研究にも力を入れており、最新の医学知識を取り入れることで、医療の質の向上を目指しています。

これまでの経験と知識を活かし、医師会の活動に積極的に参加し、地域医療の発展に貢献したいと考えております。

氏 名 ^な那 ^す須 ^{てつ}徹 ^や也

医療機関名 京都民医連あすかい病院
所 属 班 養正2班 男性
入 会 年 2024年 B会員
専 攻 神経内科、リハビリテーション科

ープロフィールー



京都市左京区生まれで、学校も修学院小中学校、北稜高校と高校まで左京区で育ちました。大学で愛媛大学に行きましたが、医師となって左京区に戻ってきて地元で活動できることを心からうれしく思っています。

専門は脳神経内科、リハビリテーション、認知症、訪問診療です。各種神経疾患やリハビリテーション、神経難病患者さんの訪問診療を中心に地域の先生方と連携し、地域でお役に立てればと思います。

氏 名 ^{こん}近 ^{とう}藤 ^{ゆりこ}有里子

医療機関名 左京保健センター

所 属 班 葵2班 女性

出 身 校 京都府立医科大学 平成19年
卒

入 会 年 2024年 B会員

専 攻 糖尿病代謝内科

趣 味 料理

ープロフィールー



京都市立病院で初期臨床研修医、糖尿病代謝内科医として勤務後、大学院で糖尿病のある人のQOLや心理を中心に研究を行ってきました。生活習慣病の予防を含め健康増進に幅広く関わりたく2024年4月に京都市の公衆衛生医師に着任し、左京区を担当させていただくこととなりました。地域の皆様のお役に立てるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈お断りとお願い〉

ご紹介させて頂いた先生方の診療所・勤務先、診療時間、連絡先等は左京医師会会員名簿をご参照下さい。原稿のご提出を頂いていない先生がおられましたら、ご協力のほどよろしくお願い致します。原稿は左京医師会事務局に問い合わせ、もしくは左京医師会ホームページからダウンロードして頂くことで入手可能です。

編 集 後 記

祇園祭のお囃子がそここできかれる季節となりました。蒸し暑い京都の夏にひとすじの涼を与えてくれるよき音色です。と共に、脱水や熱中症などに注意の必要な季節到来です。タイムリーに学術講演会で西本先生がご講演くださり、要旨が今号に掲載されています。屋外作業者やご高齢の患者さま方はもちろんのこと、日々患者さんのために医療に尽力されている会員の先生方ご自身も、知らぬ間に脱水になっておられませんか？ どうぞ、お仕事中也一息と一口の水分補給を忘れずに、夏バテなくお過ごしくくださいますよう、願っております。

医報担当 兵庫美砂子

ホームページコーナー

URL <https://www.sakyo.kyoto.med.or.jp>

左京医師会では、ホームページを開設しております。皆様のアクセスをお待ちしております。また会員メーリングリストの運営を行っていますので、参加ご希望の方は医師会事務所までご連絡ください。

情報広報委員会

左京医報投稿のお願い

原稿締切 毎月 15 日
発 行 翌月初旬(合併号はこの限りではありません)
内 容 随筆・感想文・旅行記などを募集しております。また、表紙に絵画・書・写真などを左京医報へ掲載していただける先生がおられましたら、お気軽に事務所か兵庫美砂子までご連絡をお願いします。

左京医報 2024 年 7・8 月合併号(699・700 号)

発行日 2024 年(令和 6 年) 7 月 1 日

発行所 一般社団法人 左 京 医 師 会

京都市左京区岩倉大鷲町422番地

電 話 (075) 701-1500

FAX (075) 701-1751

E-mail info@sakyo.kyoto.med.or.jp

発行人

編集人

印刷所

塩 見 聡 史

兵 庫 美 砂 子

(株)こだま印刷所

電 話 (075) 841-0052

FAX (075) 811-7873

E-mail mail@kodamap.co.jp